

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

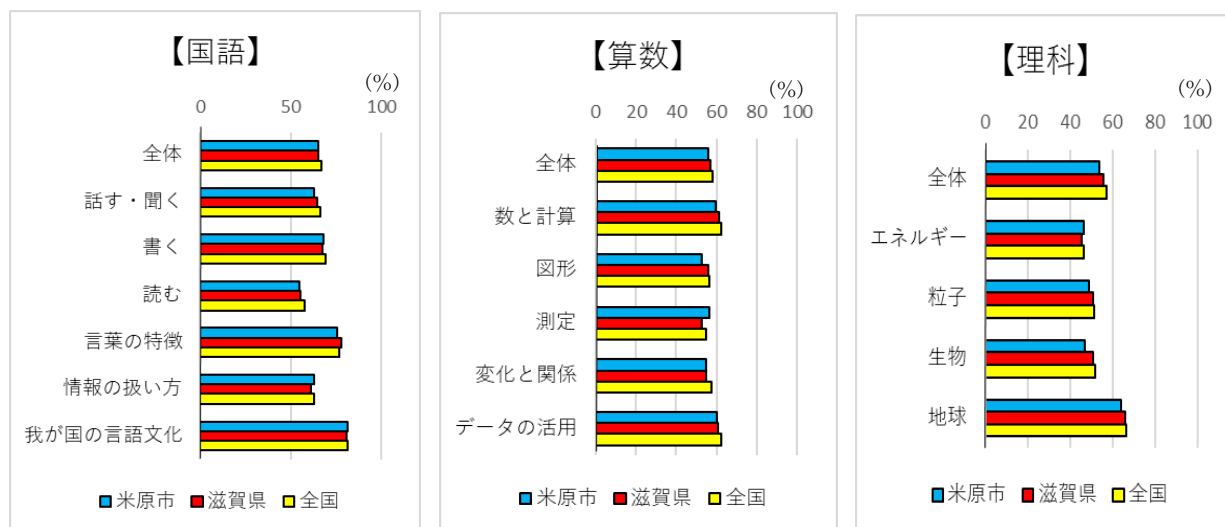
(2) 調査の対象および内容

- ・ 調査対象 … 小学校第6学年（市内9校）340人、中学校第3学年（市内6校）316人
- ・ 調査内容 … 【教科に関する調査】
 - ・ 小学校第6学年：国語、算数、理科（各45分）
 - ・ 中学校第3学年：国語、数学、理科（各50分）
国語、算数・数学、小学校理科は冊子を用いた筆記方式（PBT）
中学校理科は、ICT端末を用いた文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT）
- 【生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査】
 - ・ 児童生徒に対する調査（20～40分程度）
小学校はCBT、中学校はMEXCBTで実施
 - ・ 学校に対する調査（オンラインによる回答）
- ・ 調査期日 … PBTによる調査：令和7年4月17日（木）
CBT（児童質問紙）：4月18日～30日のいずれか1日
MEXCBT（中学校理科：生徒質問紙）：4月14日～17日のいずれか1日

2 教科に関する調査の結果

(1) 標準学力調査の平均正答率

小学校第6学年

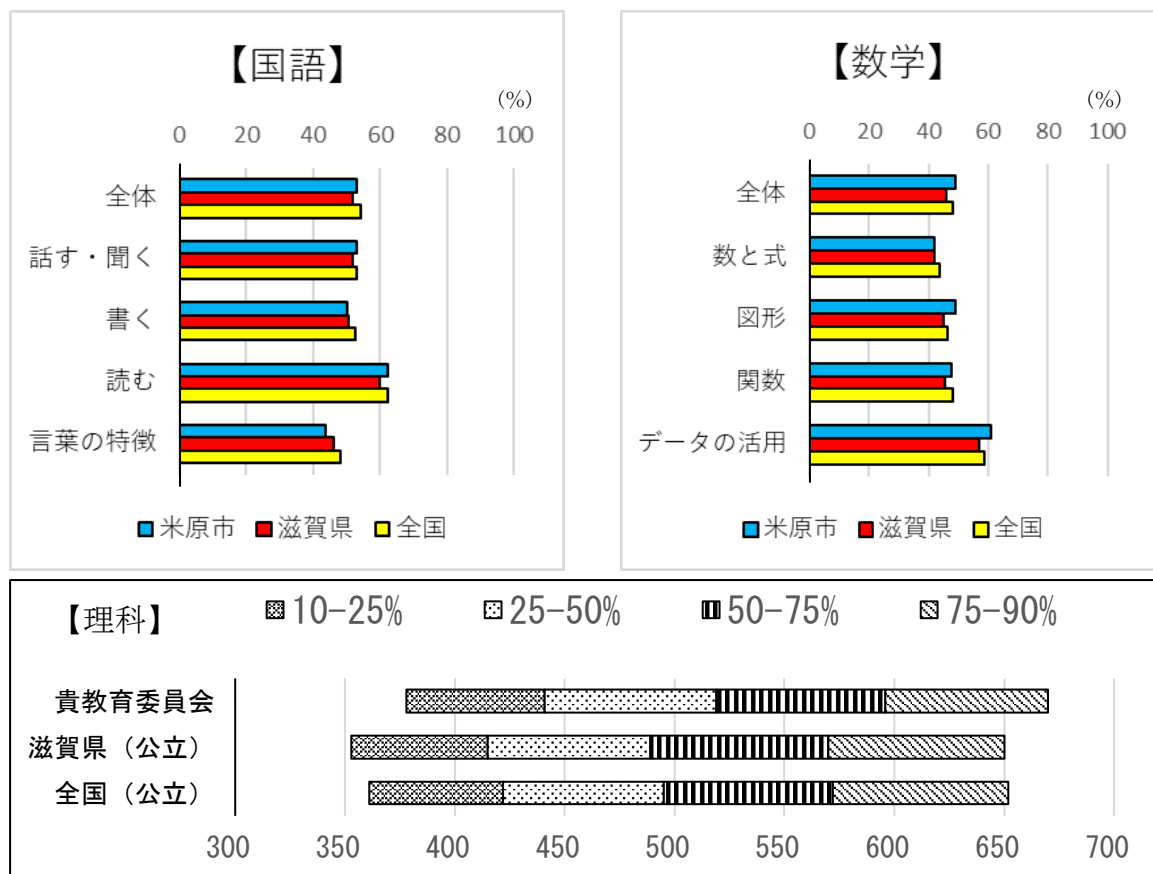


国語：全国平均と比べてやや下回る。特に、「話す・聞く」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がある。

算数：「測定」以外は、滋賀県、全国平均と比べてやや下回る。特に、「図形」「変化と関係」に課題がある。

理科：滋賀県、全国平均と比べて下回る。特に、「粒子」「生物」に課題がある。

中学校第3学年



IRT スコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%, 25%, 50%, 75%, 90%）

国語：全国平均と比べてやや下回る。「書く」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られるが、その他は滋賀県平均をわずかに上回っている。

数学：滋賀県、全国平均と比べて上回る。「数と式」に若干の課題が見られる。

理科：IRT スコアは滋賀県、全国平均と比べ、上回っている。

(2) 正答率が低かった問題

① 小学校第6学年【国語】「話すこと・聞くこと」(思考・判断・表現) 1ー

【話し合いの様子】の小森さんは、インタビューをどのように進めようと考えて、——部の発言をしましたか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
- 2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、相手が答えやすい内容を避けるようにしている。
- 3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を避けるようにしている。
- 4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

1

小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人にインタビューをするようにしました。バスの運転士に興味のある小森さんたちは、インタビューで質問することを話し合っています。次の【話し合いの様子】と【話し合いの記録】をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

【話し合いの様子】

小森さん 質問することを整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを聞きたいな。きっと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切にしていると思うな。

町田さん 安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだな。

小森さん 確かに、大変そうだね。「仕事で大切にしていること」で話してくれたことをきいて、「仕事で大変なこと」を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、楽しそうだなと思っていたけど、大変なこともあるんだね。大変なことがあっても仕事を続けられている理由も聞きたいな。

町田さん さっと仕事にやりがいがあるからだだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることややりがいについては、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん うん、そうしよう。ここまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめよう。この進め方でいいかな。

【話し合いの記録】

働くこと (バスの運転士)

大切にしていること | やりがい

予想 (安全を守る) | (時間を守る)

↓

大変なこと → 大変なのに続ける理由

小図-1

② 中学校第3学年【国語】「言葉の特徴や使い方に関する事項」(知識・技能) 1ー

【ちらし】

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。

私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいいの出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。体験コーナーでは、中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

日 時 令和7年11月15日(土) 10時～16時

場 所 第一中学校 体育館

会場図

体験できる時間(各回30分間)

①10時～ ②11時～ ③12時～ ④13時～

ー 中井さんは、【ちらし】の——線部「かいいん」を漢字に変換しようとしています。漢字に変換したものとして最も適切なものを、次の1から3までの中から1つ選びなさい。

- 1 会心
- 2 改心
- 3 改新

<調査結果のポイント>

【小学校国語】

- 「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題が見られた。(問題①)
- 「書くこと」において、図表などを用いて、自分の考えが伝わるような文章を選ぶことができていた。

【中学校国語】

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、文脈に即して漢字を正しく書くことに課題が見られた。(問題②)
- 「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考え、記述することができていた。

③ 小学校第6学年【算数】「図形」(思考・判断・表現) 2 (4)

(4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

図3

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。

わかな: 私は、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。

ゆうた: 私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、2つの図形の面積がそれぞれ何cm²になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

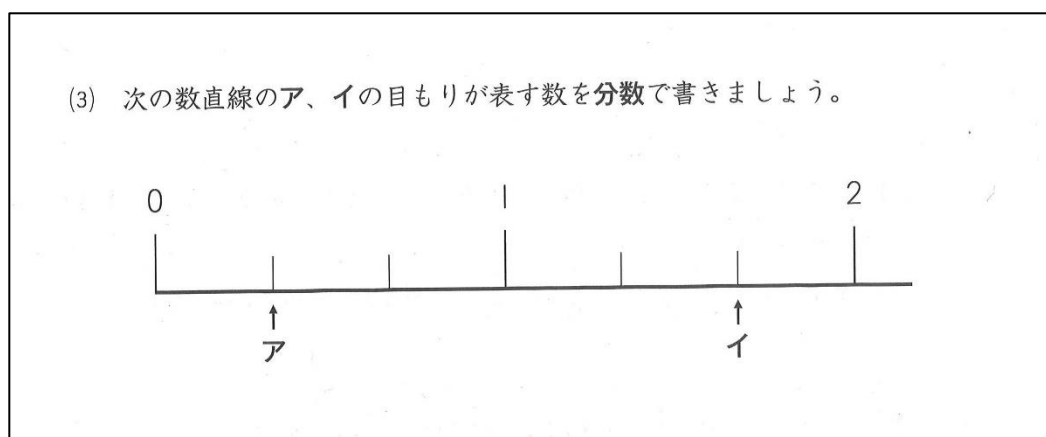
1 直線イオ

2 直線ウオ

※ 必要ならば、下の公式を使って考えてもかまいません。

- 長方形の面積＝たて×横
＝横×たて
- 正方形の面積＝1辺×1辺
- 平行四辺形の面積＝底辺×高さ
- 三角形の面積＝底辺×高さ÷2
- 台形の面積＝(上底+下底)×高さ÷2
- ひし形の面積＝対角線×対角線÷2

④ 小学校第6学年【算数】「数と計算」(知識・技能) 3 (3)



⑤ 中学校第3学年【数学】「数と式」(知識・技能) 1

- 1 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

<調査結果のポイント>

【小学校算数】

- 「図形」において、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題が見られた。(問題③)
- 「数と計算」において、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題が見られた。(問題④)
- 「測定」において、はかりの目盛りを正しく読むことができていた。

【中学校数学】

- 「数と式」において、素数の意味を理解することに課題が見られた。(問題⑤)
- 「データの活用」において、不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面において、数や式、表、グラフなどを活用して、数学的に処理をしたり、相対度数の意味を理解したりできた。
- 「図形」において、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができた。また、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することもできた。

⑥ 小学校第6学年【理科】「生命」(思考・判断・表現) 3 (3)

たかひろさんたちは、インゲンマメの発芽の条件について調べたことを思い出し、次のように、ヘチマの発芽について調べることにしました。

【問題】ヘチマの種子は、どのような条件で発芽するのだろうか。

【予想】インゲンマメの種子と同じように、水、空気、適した温度(室温)といった条件で発芽すると思う。

【方法①】水が必要が調べる。

【条件】 ・水あり ・空気あり(種子が空気にふれている) ・温度(室温) ・日光なし(箱をかぶせている) ・肥料なし	【条件】 ・水なし ・空気あり(種子が空気にふれている) ・温度(室温) ・日光なし(箱をかぶせている) ・肥料なし
---	---

【方法②】空気が必要が調べる。

【条件】 ・水あり ・空気あり(種子が空気にふれている) ・温度(室温) ・日光なし(箱をかぶせている) ・肥料なし	【条件】 ・水あり ・空気なし(種子が空気にふれていない) ・温度(室温) ・日光なし(箱をかぶせている) ・肥料なし
---	--

【方法③】適した温度(室温)が必要が調べる。

ケ	コ
----------	----------

(3) 【方法③】のケとコは、それぞれどのような条件で実験すればよいですか。ケとコにあてはまる実験を、下の1から4の中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

1 【条件】 ・水あり ・空気あり(種子が空気にふれている) ・温度(室温) ・日光なし(箱をかぶせている) ・肥料なし	2 【条件】 ・水あり ・空気あり(種子が空気にふれている) ・温度(室温) ・日光あり(箱をかぶせている) ・肥料なし
3 【条件】 ・水あり ・空気なし(種子が空気にふれていない) ・温度(室温) ・日光なし(箱をかぶせている) ・肥料なし	4 【条件】 ・水あり ・空気あり(種子が空気にふれている) ・温度(室温) ・日光あり(直接日光が当たらない明るい所) ・肥料なし

実験の結果から、ヘチマの種子も、水、空気、適した温度といった条件が必要だったよ。

たかひろ

⑦ 中学校第3学年【理科】「エネルギー」（思考・判断・表現）3（1）

3

理科の授業で温度を学習し、教室に設置している温度計の仕組みに興味をもち、科学的に探究しています。
 (1)、(2)の各問いに答えなさい。



温度センサーが内部にあり、センサーに流れる電流の大きさによって温度を測定していることが分かりました。



オームの法則が成り立つのかな。



調べて分かったことから、仮説を立てて、実験を計画しましょう。

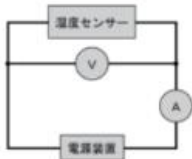


図1

【仮説】
 図1の回路で実験を行ったとき、回路の中の温度センサーには、オームの法則が成り立つ。

(1)
 【仮説】が正しい場合、どのような結果が得られればよいか、最も適切なものを1つ選びなさい。

☐	電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
	電流の大きさ (mA)	1.0	1.5	2.0

☐	電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
	電流の大きさ (mA)	0.5	1.0	1.5

☐	電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
	電流の大きさ (mA)	1.5	1.5	1.5

☐	電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
	電流の大きさ (mA)	3.0	1.5	1.0

<調査結果のポイント>

【小学校理科】

- 「生命」において、発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することに課題が見られた。また、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし表現することにも課題が見られた。（問題⑥）
- 「エネルギー」において、電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いていた。

【中学校理科】

- 「エネルギー」において、仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路図による知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することに課題が見られた。
- 「粒子」において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して、解釈することができた。（問題⑦）
- 「地球」において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探求の過程の見通しについて分析し、解釈することができた。

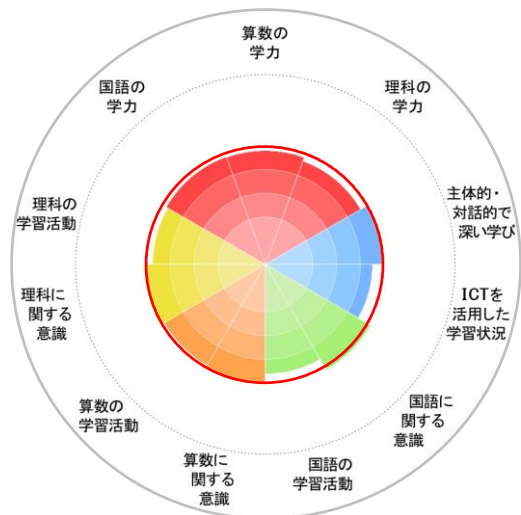
3 質問紙調査の結果

(1) 各学校の教科に関する調査、および児童質問調査の結果について、全国、県と比較基準として標準化して図示したチャート。

①小学校第6学年のチャート図

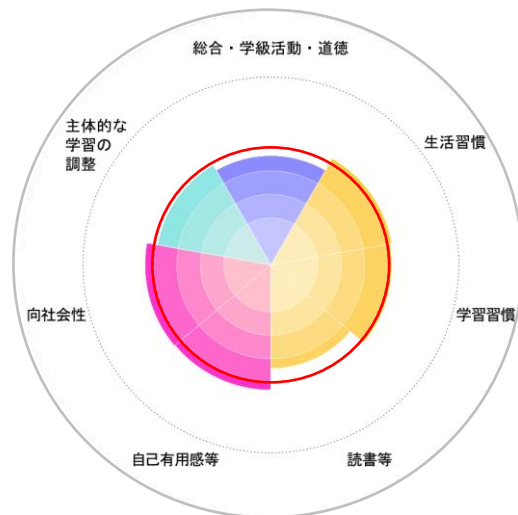
【教科を中心とした学力・学習状況】

(赤線は全国基準)

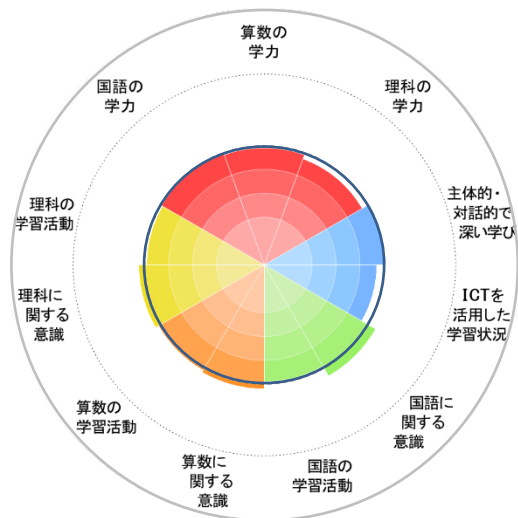


【その他の学力・学習状況 (学習習慣・自己有用感等)】

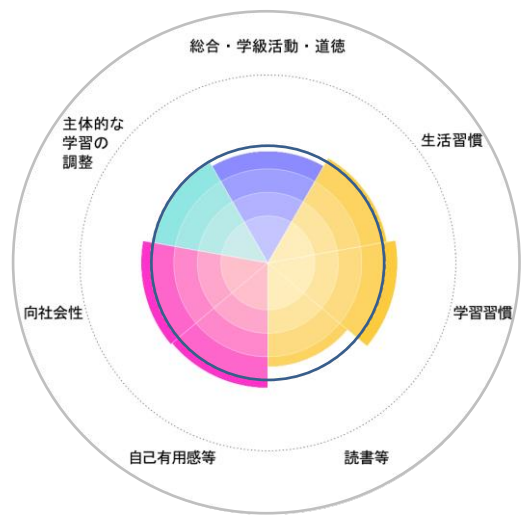
(赤線は全国基準)



(青線は滋賀県基準)



(青線は滋賀県基準)



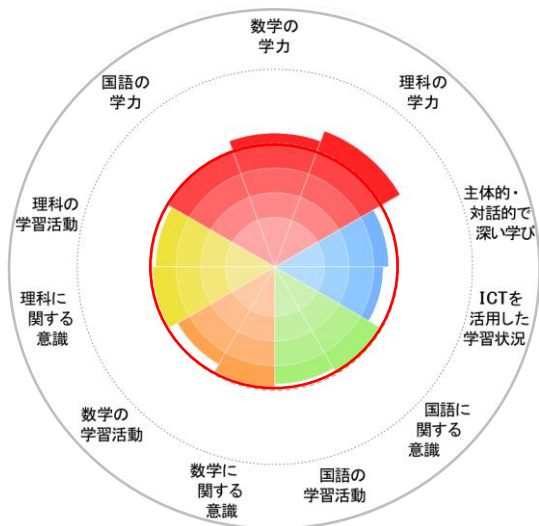
教科を中心とした質問紙では、全国・県と比較して、「ICTを活用した学習状況」に課題が見られる。また、その他の学力・学習状況では、全国・県と比較して「読書等」に落ち込みが見られる。一方、「向社会性」や「自己有用感等」においては、全国・県と比較して、基準を上回っており、本市が目指している自己肯定感、自己有用感の育成は一定の成果がみられると考える。

- 最も肯定値（「強い肯定」「弱い肯定」で回答した児童生徒の割合）が高い質問
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 98.2（昨年より - 0.9）
- 最も肯定値が低い質問
「新聞を読んでいますか」 8.5（昨年より - 1.0）
- 全国と比較して肯定値が高い質問
「あなたは自分がPC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表用のスライド）を作成することができますと思いますか」 82.2（全国+5.5）
- 全国と比較して肯定値が低い質問
「あなたは自分がPC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図・表・グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますと思いますか」 57.2（全国-12.1）

①中学校第3学年のチャート図

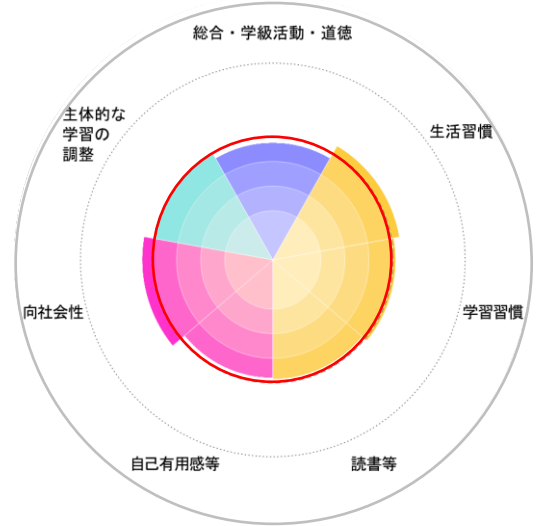
【教科を中心とした学力・学習状況】

（赤線は全国基準）

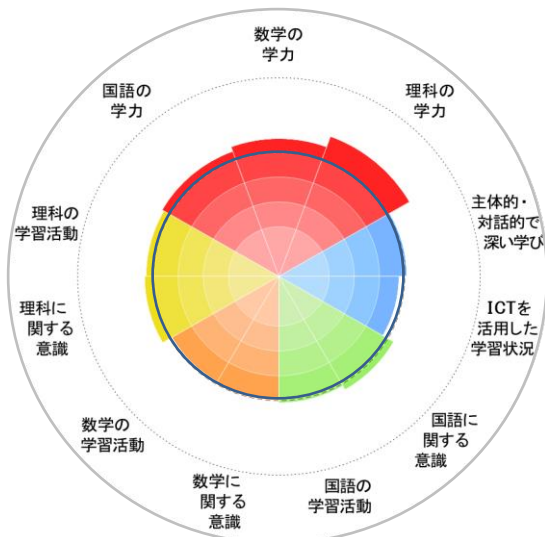


【その他の学力・学習状況（学習習慣・自己有用感等）】

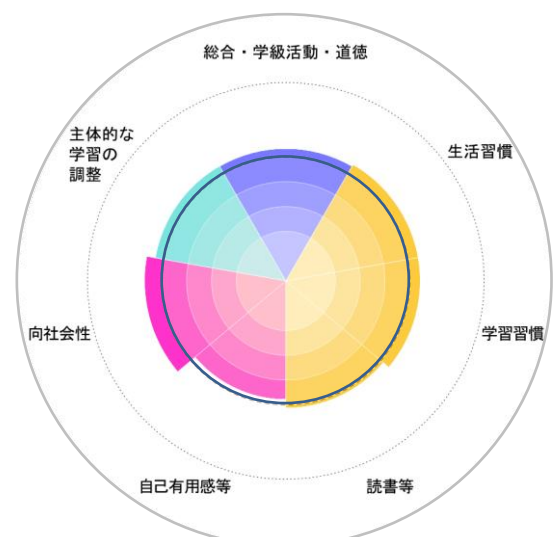
（赤線は全国基準）



（青線は滋賀県基準）



（青線は滋賀県基準）



教科を中心とした質問紙では、全国と比較して、「主体的・対話的で深い学び」「ICT を活用した学習状況」に課題が見られる。また、その他の学力・学習状況では、「自己有用感」に若干の落ち込みが見られるものの、全国・県と比較して目立った落ち込みは見られない。

その他の学力・学習状況では、「向社会性」において、全国・県と比較して、基準を上回っており、地域との結びつきの強さがみられる。

○最も肯定値（「強い肯定」「弱い肯定」で回答した児童生徒の割合）が高い質問

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 96.9(昨年より-0.6)

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 96.9(昨年より+1.0)

●最も肯定値が低い質問

「新聞を読んでいますか」 5.2(昨年より-3.3)

○全国と比較して肯定値が高い質問

「国語の勉強は得意ですか」 60.6(全国+5.4)

●全国と比較して肯定値が低い質問

「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」

48.3(全国-10.3)

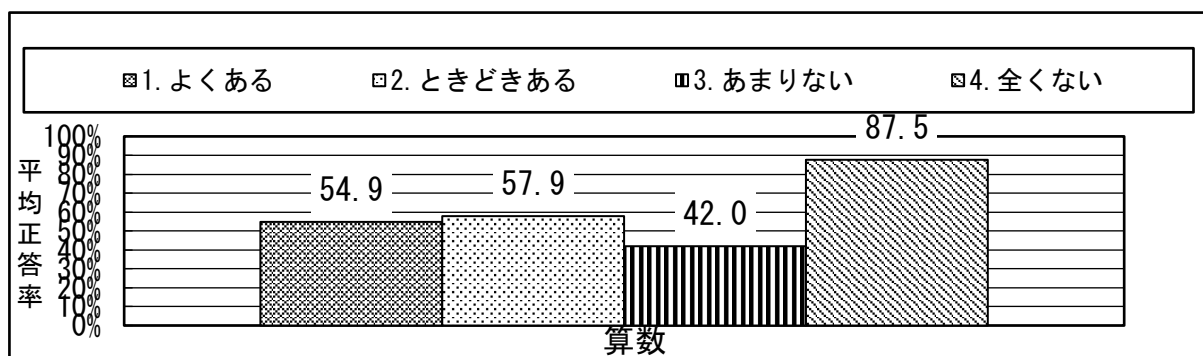
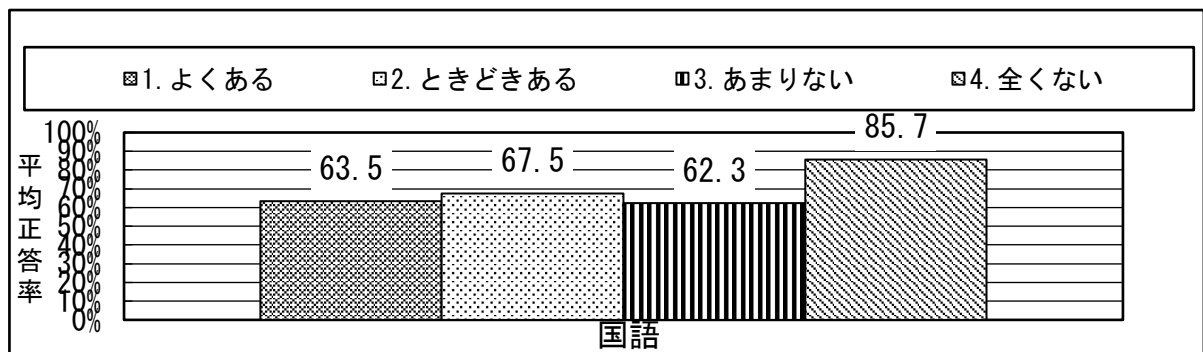
(2) 学力調査結果とのクロス集計

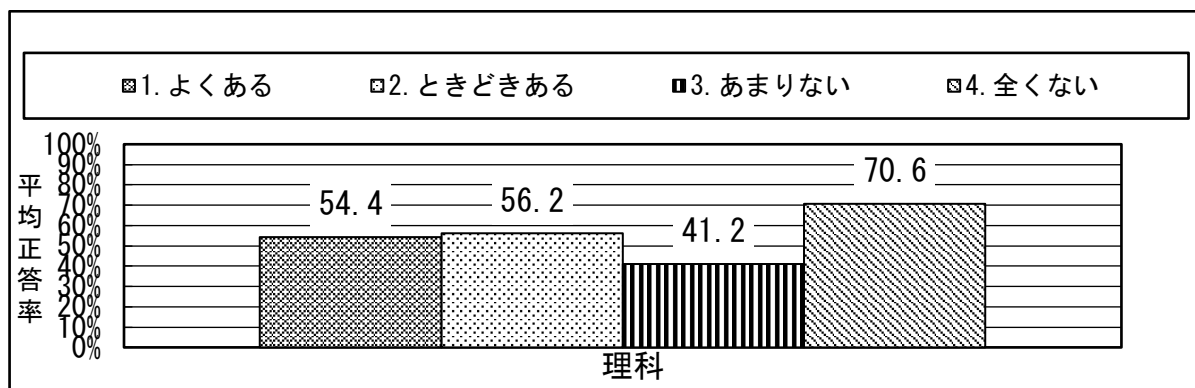
児童生徒質問調査において、質問ごとの各教科区分とのクロス集計を分析すると、おおむね肯定的評価が高いほど平均正答率や IRT スコアが高いことがうかがえた。

ただし、以下の質問においては逆転現象（肯定的評価より 10 ポイント以上の差）が見られた。

【小学校第 6 学年】

・ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

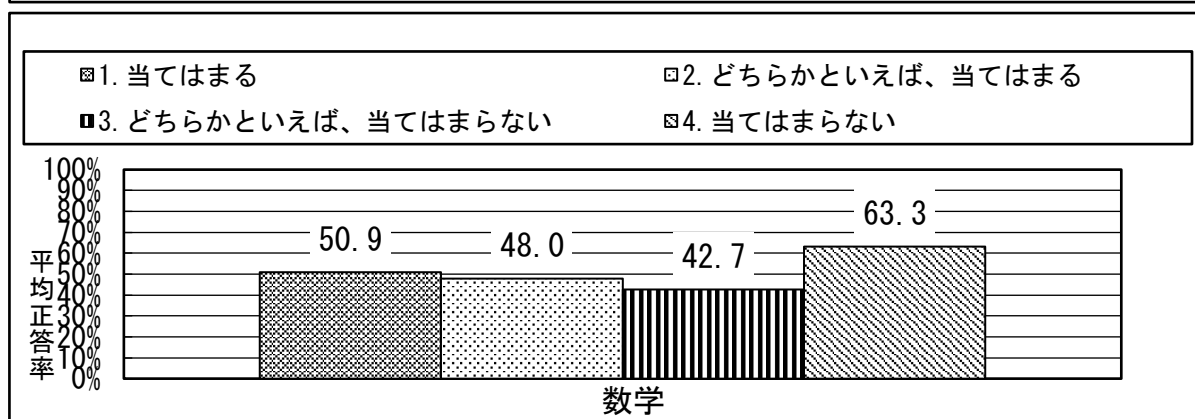
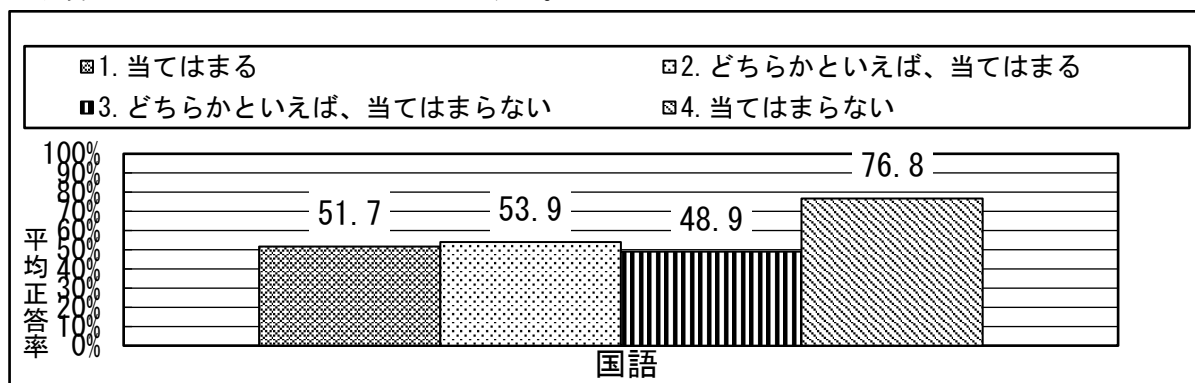


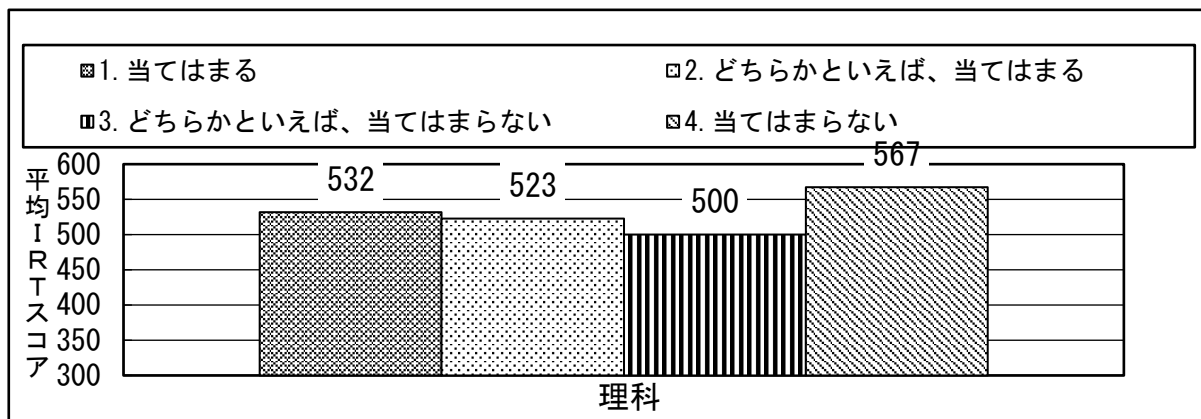


子どもたちのとらえる「幸せな気持ち」が何を指しているのか、わかりにくいところではある。推測になるが、塾や習い事などに忙しく、知識は定着しているが生活として満たされていない児童が一定数いるのではないだろうか。感覚的な回答が学力には必ずしも結びついていないという結果となっている。

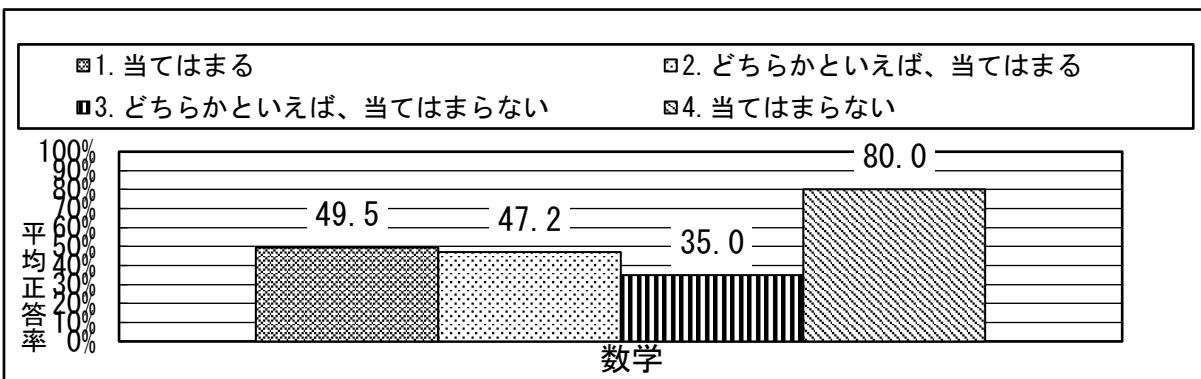
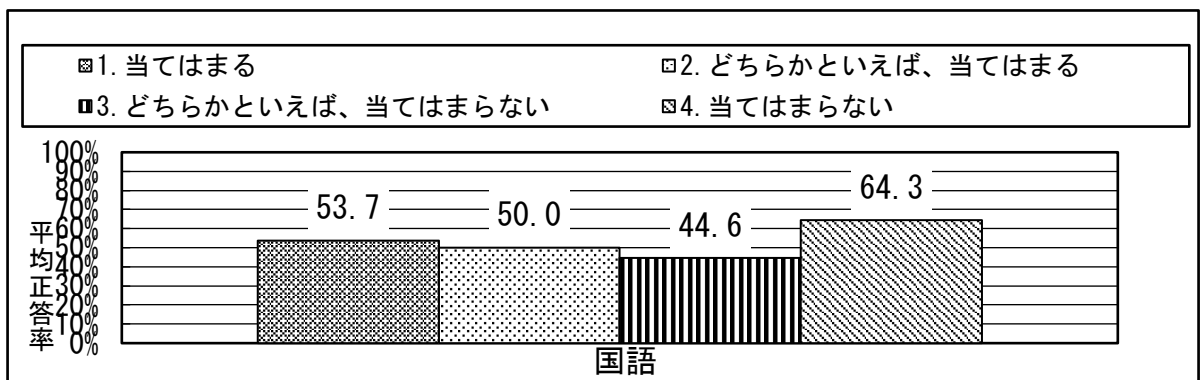
【中学校第3学年】

・自分にはよいところがあると思いますか。

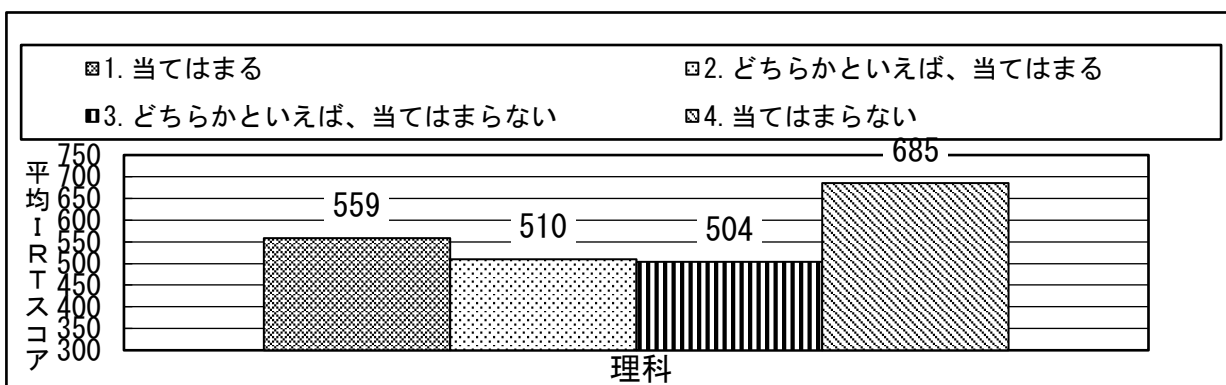
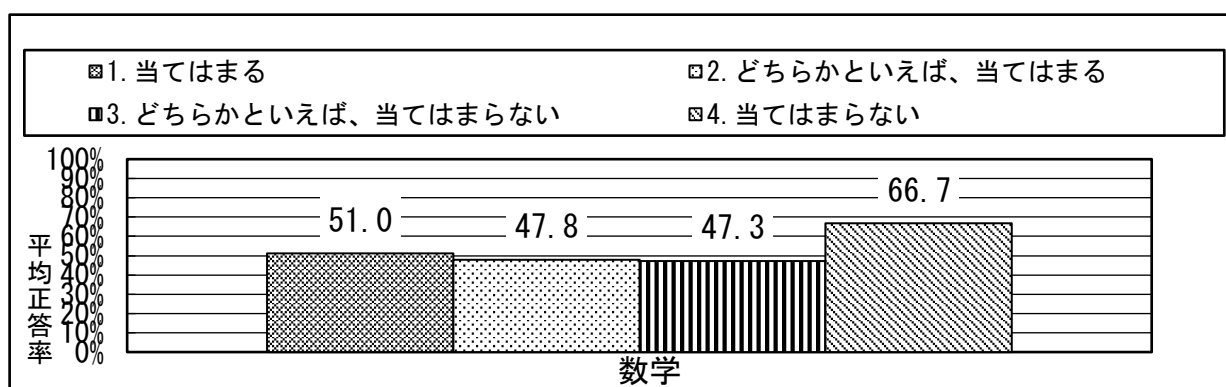
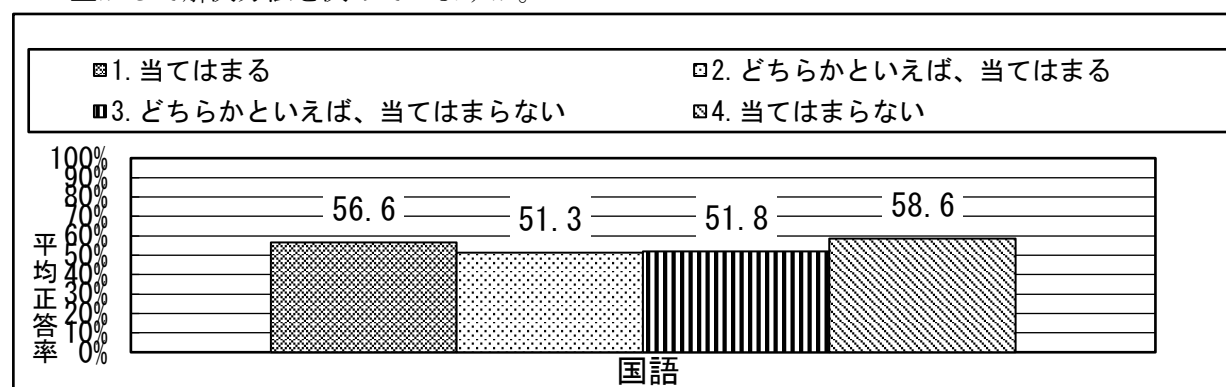




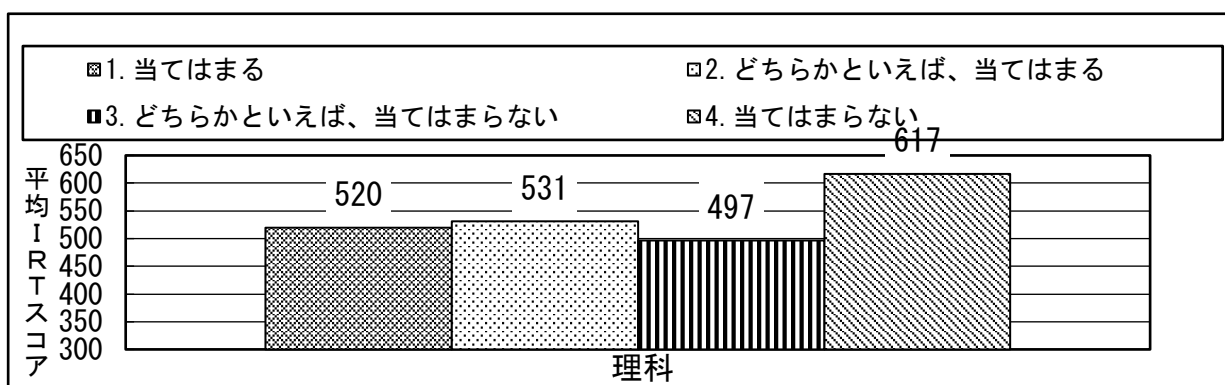
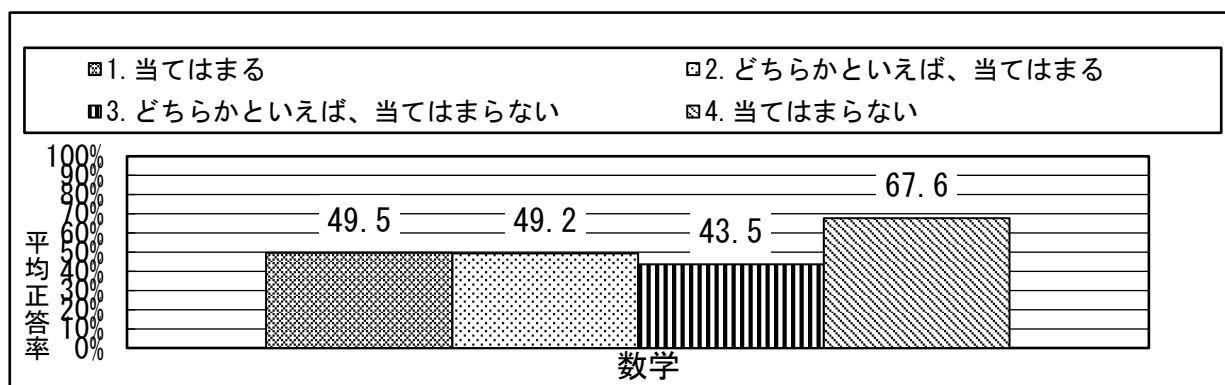
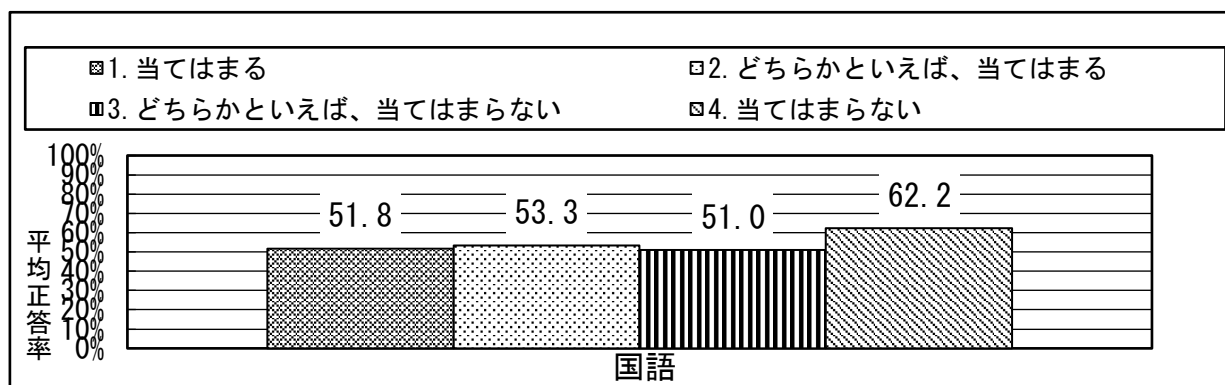
・人の役に立つ人間になりたいと思いますか



- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。



小学校の結果同様、「自分にはよいところがある」や「人の役に立つ人間になりたい」という内容は質問自体が主観的である。生徒によって解釈が異なる場合があり、質問と学力が必ずしも一致しない結果となったと考えられる。

高い正答率を持つ生徒が必ずしも集団活動や自己肯定感に強い意識をもたないという点から、個々の学習スタイルや目標設定が、学力を重視し自己評価や他者との協力には慎重であるという可能性もある。

これらの結果を踏まえて、集団作りや自己肯定感の育成についてのアプローチ方法をさらに検証し、アップデートする必要があると考える。